

インターネットのドメインを管理する国際団体 Internet Corporation for Assigned Names and Numbers (ICANN) は、2011年6月20日に分野別のトップレベル・ドメイン (gTLD) の自由化を決定した。gTLD には、「.com」や「.net」など22種類のドメインがあるが、新たに都市名や企業名あるいは製品名や製品分野名を登録できるようになる。日本でも申請と運用準備の支援を始めており、2012年1月12日から4月12日まで申請を受け付け、最短9ヶ月で承認される。使用許可を含めたサブドメインの直接管理により、日本語サブドメインの使用など目的に合ったサイト運営が可能となり、新たなビジネスモデルによるサービス・イノベーションが期待される。

## トピックス4 インターネットのトップレベル・ドメインの自由化

インターネットのドメインを管理する国際団体 Internet Corporation for Assigned Names and Numbers (ICANN) は、2011年6月20日にシンガポールで開催した特別会議で、分野別のトップレベル・ドメイン generic top-level domain (gTLD) を自由化することを決定した<sup>1)</sup>。トップレベル・ドメインには、「.jp」(日本) や「.us」(米国) など252の国別トップレベル・ドメイン (ccTLD) と、「.com」(商業組織用) や「.net」(ネットワーク用) など22の分野別トップレベル・ドメイン (gTLD) がある。今回の決定により、都市名や企業名あるいは製品名や製品分野名などを gTLD として登録できるようになる。アルファベット3文字以上の文字列であることが必要条件だが、将来的には日本語を含む各国語での対応も可能になる。

ICANN は、2012年1月12日から4月12日までの期間に新 gTLD の申請を受け付け、50項目の審査項目をもとに申請者の実績や技術力などの初期審査および追加審査と、システムテストなどの権限委譲準備を経て、最短9ヶ月で申請された新 gTLD を承認する予定である。ICANN への申請費用は185,000ドルで、承認後には年額25,000ドルの契約費用が発生する。

日本でも、GMOドメインレジストリ(株)や日本ベリサイン(株)が、新 gTLD の申請と運用準備の支援を始めている<sup>2,3)</sup>。「.canon」、「.hitachi」、「.ryukyu」、「.okinawa」などが申請される予定であり、「.tokyo」や「.kyoto」も誕生する可能性がある。海外では、「.paris」、「.london」、「.nyc」、「.health」、「.movie」、「.eco」、「.shop」、「.sale」、「.music」なども申請予定である。

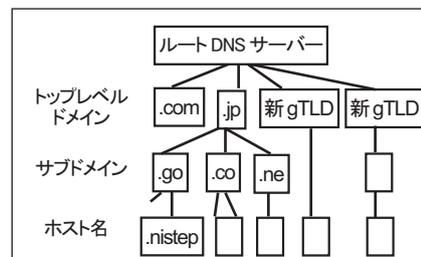
Webサーバーやmailサーバーには、IPv4の場合、202.241.05.04のように3桁ごとに区切った合計12桁のIPアドレスが付けられている。このような数字の羅列では覚えるのに不便なため、IPアドレスの代わりに nistep.go.jp のようなドメイン名が使われ、インターネット上の住所の役割を果たしている。ドメイン名を入力すれば、DNS

(Domain Name Service)サーバーによってIPアドレスに変換され、そのIPアドレスを持つwebサーバーに繋がる。

ドメインは、図表のような階層構造をしており、各ドメインには、少なくとも1つのDNSサーバーを置くことが義務付けられている。上層ドメインは、1つ下の階層のドメインのみを管理する。最上層には、世界各国の13の企業・団体が管理するルートDNSサーバーがあり、それぞれのサーバーは、トラフィック分散やリスク分散のため、世界各地の分散サイトで運営されている。新 gTLD がルートDNSサーバーに登録されると同時に、新 gTLD の取得者はサブドメインを管理する義務を負うことになる。

新しい gTLD の取得により、取得者の意思に基づいて、使用許可を含めたサブドメインの直接管理が可能となる。これにより、セキュリティの強化、顧客対話管理、日本語サブドメインの使用など、目的にあったサイト運営ができる。例えば、全国の病院を .hospital というドメインで統一すれば、医療機関どうしの連携が密になり、安全に電子カルテを交換することが可能となる。また、都市名の gTLD であれば、地元の商店街や観光施設との連携が可能である。検索エンジンはドメインの信頼性も考慮するため、信頼性の高いドメインを構築できれば、検索エンジンで上位表示される可能性も大きくなる。gTLD の自由化により、このような新たなビジネスモデルによるサービス・イノベーションが期待される。

図表 ドメインの階層構造



科学技術動向研究センターにて作成

### 参考

- 1) ICANN ニュースリリース (2011年6月20日) : <http://www.icann.org/en/announcements/announcement-20jun11-en.htm>
- 2) GMOドメインレジストリ(株) ニュースリリース (2011年6月21日) : <http://www.gmo.jp/news/article/?id=3770>
- 3) 日本ベリサイン(株) ニュースリリース (2011年6月22日) : [https://www.verisign.co.jp/press/2011/pr\\_20110622b.html](https://www.verisign.co.jp/press/2011/pr_20110622b.html)